

## キヤノン株式会社

### 2023 年第 2 四半期 決算説明会【主な Q&A 要約】

**Q1. MFP のノンハードが堅調に推移しているのはなぜか。また今後も持続可能か。**

**A1.** 中長期では伸ばすことは難しいと考えているが、今年は供給回復により本体売上が好調であることに加え、プリントボリュームもコロナ前には戻らないまでも回復基調にあり、安定的である。

**Q2. レーザープリンターの下期売上が上期と比べて強いのは、どのような前提か。**

**A2.** 昨年 2Q が製品供給回復局面で売上水準が高く、上期が悪く見えている。今年は 4 月に発売した中・高速機の新製品が好評で、下期の売上回復を牽引していく。

**Q3. IJ の見通しの下方修正理由と下期が依然として前年から伸びる計画の背景。**

**A3.** 下方修正の要因は、中国のコロナ対策の方針変更により在宅需要が急速に鈍化したこと等にある。下期は、大容量インクモデルのラインアップを増やし、積極的に拡販することにより、上向いていくと考えている。

**Q4. リコーと東芝テックの開発・生産機能の統合についてアナウンスがでているが、キヤノンも同様の戦略的な話はあるか。**

**A4.** キヤノンは開発、生産、販売全てを内製で十分に行えており、現時点では他社と協業するメリットは感じていない。

**Q5. 上期と比べ、カメラは下期の利益率が少し下がってきている背景。**

**A5.** 競合の供給が回復し、下期は競争環境が厳しくなると想定し、販促費を厚めに計画している。また新製品の貢献により、エントリーモデルの売上比率が増えていく計画である。

**Q6. 「ネットワークカメラ他」が、2Q は現地通貨ベースでは売上がマイナスの理由。**

**A6.** ネットワークカメラは、依然として高い成長を続けている一方で、その他の事業は、昨年 2Q がシネマカメラ新製品発売直後で売上水準が高かったため、減収となっている。

**Q7. メディカルの利益率について、利益率が下期に大きく改善する背景。**

**A7.** 上期に受注を伸ばしている MRI や超音波装置の設置が進むことに加えて、下期は CT の戦略商品の売上寄与がはじまり、さらに販売を伸ばしてきた大型装置のサービス収入も増加することによって、下期は売上・利益ともに増大していく。

## キヤノン株式会社

### 2023 年第 2 四半期 決算説明会【主な Q&A 要約】

**Q8. キヤノンの後工程向け半導体露光装置について、今後の見通しはどうか。**

**A8.** 生成 AI 向け GPU 生産にキヤノンの後工程向け i 線ステッパーが適しており、本年も受注・販売が増えており、来期以降はさらに増えていく見込み。

**Q9. その他及び全社について、上期に比べて下期の費用が多い背景。**

**A9.** 平塚に建設した新棟で開発をはじめたことによる償却・開発費増に加え、Canon EXPO 開催費用が計画に織り込まれている。

---

本資料で記述されている業績見通し並びに将来予測は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した見通しであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれていません。そのため、様々な要因の変化により、実際の業績は記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。